

モネ、スーラ、シニャックからマティスまで

新印象派

Neo-Impressionism,
from Light to Color
光と色のドラマ

2015.1.24 SAT - 3.29 SUN



東京都美術館
TOKYO METROPOLITAN ART MUSEUM

開館時間 = 9:30 ~ 17:30 (金曜日は20:00まで) ※入室は閉室30分前まで 休室日 = 月曜日

主催 = 東京都美術館(公益財団法人東京都歴史文化財団)、日本経済新聞社 協賛 = NEC、花王、損保ジャパン日本興亜、ダイキン工業、大日本印刷、トヨタ自動車、みずほ銀行
協力 = エールフランス航空/KLMオランダ航空、日本航空 後援 = 在日フランス大使館/アンスティチュ・フランス日本



新印象派

Neo-Impressionism,
from Light to Color
光と色のドラマ



アンリ=エドモン・クロス《地中海のほとり》1895年 油彩、カンヴァス 65.5×93cm 個人蔵 © Steven Tucker

会場



東京都美術館
TOKYO METROPOLITAN ART MUSEUM

〒110-0007 東京都台東区上野公園8-36 <http://www.tobikan.jp/>

- JR 上野駅「公園口」より徒歩7分
 - 東京メトロ銀座線・日比谷線 上野駅「7番出口」より徒歩10分
 - 京成電鉄京成上野駅より徒歩10分
- ※ 駐車場はありませんので、車での来館はご遠慮ください。



関連イベント

記念講演会

「新印象派の絵画—芸術と科学と政治をめぐって」(仮)
日時: 2月7日(土) 午後2時~午後3時30分
講師: 三浦篤(本展学術協力、東京大学教授)

「印象派を超える挑戦—新印象派とモネ、ルノワール」(仮)
日時: 2月14日(土) 午後2時~午後3時30分
講師: 大橋菜都子(東京都美術館学芸員)

会場: 東京都美術館 講堂
定員: 各回先着225名
※当日午後1時より講堂前にて整理券を配布します(定員になり次第受付終了)
※聴講無料。ただし、本展観覧券(半券可)が必要です

イブニング・レクチャー (学芸員による展覧会の見どころ解説)

日時: 1月30日(金)、2月13日(金)、2月27日(金)、3月13日(金)
各回とも午後6時から約30分
会場: 東京都美術館 講堂
定員: 先着225名
※各回とも午後5時40分より開場します(定員になり次第受付終了)
※聴講無料。ただし、本展観覧券(半券可)が必要です

関連コンサート

「東京・春・音楽祭2015」
日時: 3月14日(土)、3月20日(金)、3月24日(火)
各日とも午後2時から約1時間
会場: 東京都美術館 講堂
詳細は下記ウェブサイトをご覧ください。
東京・春・音楽祭実行委員会 <http://www.tokyo-harusai.com/>
東京・春・音楽祭チケットサービス 03-3322-9966
コンサートに関するお問い合わせ 03-5205-6497

チケット情報

観覧料(税込)	一般	学生	高校生	65歳以上
当日	1,600円	1,300円	800円	1,000円
前売・団体	1,300円	1,100円	700円	900円
早割ペア券	2,000円	—	—	—

※早割ペア券は2014年10月30日~12月19日までの期間限定販売。
※前売券は2014年10月30日~2015年1月23日までの販売。
※団体割引の対象は20名以上。 ※中学生以下は無料。
※身体障害者手帳・愛の手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳・被爆者健康手帳をお持ちの方とその付添いの方(1名まで)は無料。
※毎月第3水曜日はシルバードーにより、65歳以上の方は無料。当日は混雑が予想されます。
※毎月第3土・翌日曜日は家族ふれあいの日により、18歳未満の子を同伴する保護者(都内在住)は一般当日料金の半額。
※いずれも証明できるものをご持参ください。
※都内の小学・中学・高校生ならびにこれらに準ずる者とその引率の教員が学校教育活動として観覧するときは無料(事前申請が必要)。

【チケット取り扱い】

東京都美術館、公式オンラインチケット、チケットぴあ [Pコード: 766-480 (早割ペア)、766-463 (前売/当日)]、ローソンチケット [Lコード: 33207]、セブン・イレブン [セブンコード: 034-150]、イープラスほか主要プレイガイド *手数料がかかる場合があります。

お問い合わせ: 03-5777-8600 (ハローダイヤル)
展覧会公式サイト: <http://neo.exhn.jp/>

音声ガイド

貸出価格: 520円(税込)
解説時間: 約30分

ナビゲーター
大空祐飛さん(元宝塚歌劇団・宙組トップスター)



Neo-Impressionism, from Light to Color

Period: January 24 - March 29, 2015 Opening hours: 9:30-17:30(9:30-20:00 on Friday) *Admission until 30 minutes before closing time Closed: Mondays Venue: Tokyo Metropolitan Art Museum(8-36 Ueno Park Taito-ku, Tokyo) Admission: Adults 1,600(1,300)yen / College students 1,300(1,100)yen / High school students 800(700)yen / Seniors(65 and over) 1,000(900)yen * ():Discount for advance purchase and group ticket over 20 people. *Admission free for visitors junior high school age or younger Web site: <http://neo.exhn.jp/>

色彩表現の変化の軌跡

美術批評家フェリックス・フェネオンが「新印象派」と名付けたのは1886年のことです。この年の5月、最後となる印象派展が開催され、ここでジョルジュ・スーラ、ポール・シニャックらによって色彩を小さな点に分割する新しい技法の作品が初めて発表されました。観る人の目の中で混ざるよう置かれた小さな点は、色彩の輝きと光の効果を高めるものでした。新印象派の作品は、翌1887年2月にはベルギーに出品され、すぐに国際的な広まりを見せます。1891年に新印象派の創始者スーラが早すぎる死を迎えた後、シニャックやクロスを中心に新印象派の様式は新たな展開を迎えました。色彩理論に忠実に従うことをやめ、自然の観察に基づく色彩からも解放されていきます。次第に自由で豊かになっていく新印象派の色彩は、マティスらによるフォーヴィスム誕生の源泉にもなりました。

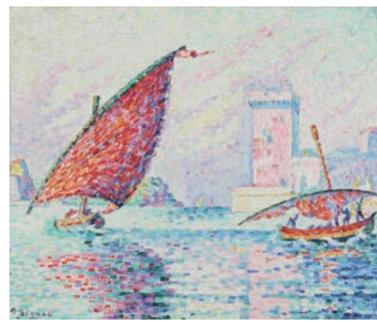
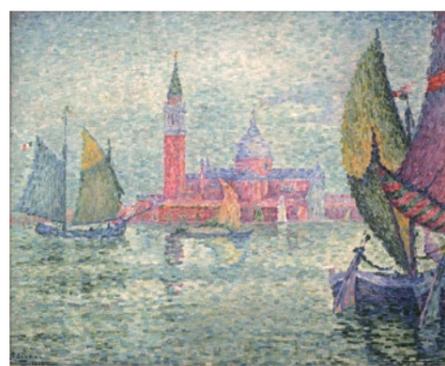
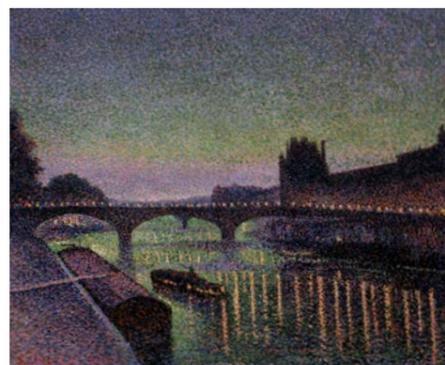
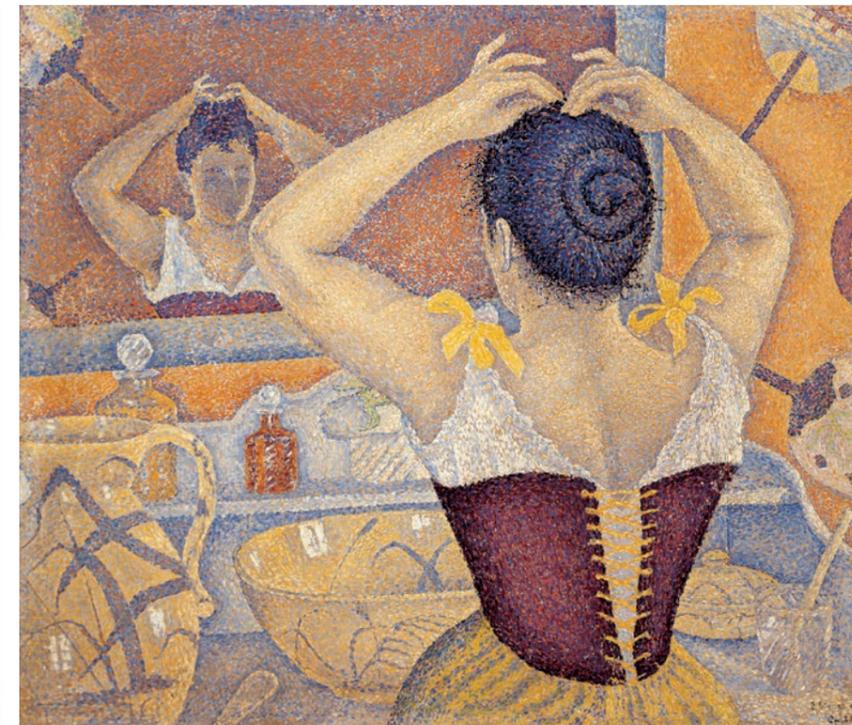
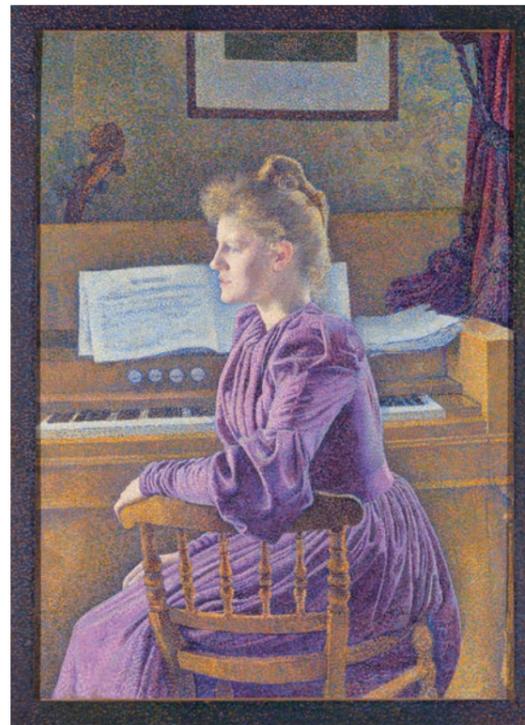
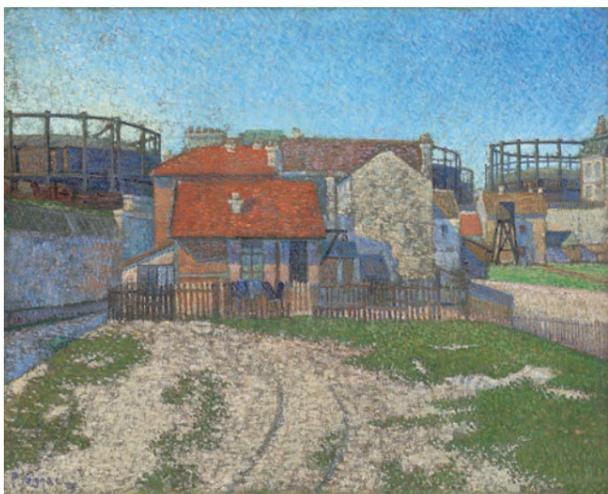
本展は、新印象派の流れをその誕生から20世紀初頭までの約20年にわたってたどるものです。世界12か国から厳選した珠玉の約100点を通して、画家たちの探究した色彩表現の軌跡をご紹介します。

新印象派とは？

1880年代半ばから1900年代初めにかけて活躍した点描技法を用いた画家たちです。彼らは、その名が示す通り「印象派」を継承しながらも、最新の光学や色彩理論を参照し、光と色の効果を探求しました。

光と色のドラマにせまる

新印象派の代表的な画家シニャックは、モネの個展を機に画家を志したと後に自ら語っています。展覧会場では、このような新印象派の画家たちにまつわる12のエピソードをご紹介します。



表面 ジョルジュ・スーラ《セーズ川、クールブヴォワにて》1885年 油彩、カンヴァス 81 × 65.2cm 個人蔵 © Droit Réservé
 1 ポール・シニャック《クリシーのガスタンク》1886年 油彩、カンヴァス 65 × 81cm ヴィクトリア国立美術館、メルボルン(1948年フェルトン遺贈) © National Gallery of Victoria, Melbourne
 2 ジョルジュ・スーラ《ポール＝アン＝ベッサンの外港、満潮》1888年 油彩、カンヴァス 67 × 82cm オルセー美術館、パリ
 Achat sur fonds d'une donation anonyme canadienne, 1952 © RMN-Grand Palais (musée d'Orsay) / Hervé Lewandowski / distributed by AMF
 3 カミーユ・ピサロ《エラニーの農家》1887年 油彩、カンヴァス 59 × 71.7cm ニュー・サウス・ウェールズ州立美術館、シドニー
 4 ヤントーロップ《マロニエのある風景》1889年 油彩、厚紙に貼られたカンヴァス 66 × 76.2cm ドルドレイト美術館
 5 ポール・シニャック《サン＝プリアックの海、ラ・ガルド・グラン岬、作品211》1890年 油彩、カンヴァス 65 × 81.5cm
 アルプ美術館 バーンホフ・ローランズエッグ、レマーゲン(ユニセフ寄贈ラウ・コレクション) © Arp Museum Bahnhof Rolandseck, Remagen / Collection Rau for UNICEF
 6 テオ・ファン・レイセルベルヘ《マリア・セート、後のアンリ・ヴァンド・ヴェルド夫人》1891年 油彩、カンヴァス 118 × 84.5cm アントワープ王立美術館 © KMSKA - Lukasweb
 7 ポール・シニャック《髪を結う女、作品227》1892年 エンコースティック、裏打ちされたカンヴァス 59 × 70cm 個人蔵 © Droit Réservé
 8 マクシミリアン・リュス《ルーヴルとカール＝ゼル橋、夜の効果》1890年 油彩、カンヴァス 63.5 × 81.5 cm 個人蔵 © Steven Tucker
 9 ポール・シニャック《ヴェネツィア》1908年 油彩、カンヴァス 73.5 × 95cm アサヒビル株式会社
 10 ポール・シニャック《サン＝トロペの松林》1892年 油彩、カンヴァス 64.6 × 80.5cm 宮崎県立美術館
 11 ポール・シニャック《マルセイユ、釣舟》または《サン＝ジャン要塞》1907年 油彩、カンヴァス 50.5 × 61.5cm アンソニアード美術館、サン＝トロペ
 Collection Musée de l'Annonciade, Saint-Tropez / Photo P. S. Azema

展示構成

プロローグ 1880年代の印象派

第1章 1886年：新印象派の誕生

第2章 科学との出会い—色彩理論と点描技法

第3章 1887年—1891年：新印象派の広がり

第4章 1892年—1894年：地中海との出会い—新たな展開

第5章 1895年—1905年：色彩の解放

エピローグ フォーヴィスムの誕生へ